

小川待子《2002-WA-BLUE 六》(部分) 2002年
photo © Norihiro Ueno

坂倉新平《内なる光—金色の僧院》1992年

Museum Collection 2 : Light in This Space コレクション展 2 :

2016.10.22(Sat.)—2017.1.15(Sun.) 光、この場所で

Special Feature—Shinpei Sakakura

特集展示 坂倉新平

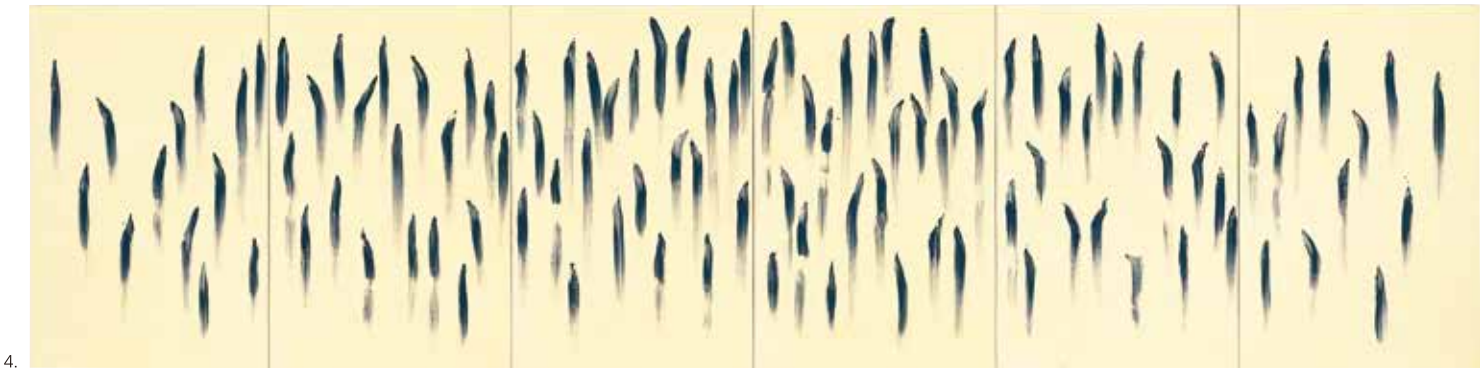
神奈川県立近代美術館 葉山
The Museum of Modern Art, Hayama

コレクション展 2:

光、この場所で

第二次世界大戦からの復興期、人々のくらしがまだ安定したとはいえない1951年11月。文化・芸術の力をもって人間相互の理解を深め、歴史的美術を現代の目で見つめなおすことを方針にして、神奈川県立近代美術館は鎌倉の地に開館しました。当時を知る人は、戦後の混乱と再生の時代にあって、美術館の開館はひとつの光のように感じられたといえます。その光は、多くのアーティスト、コレクター、愛好家、観覧者に支えられ、「鎌倉館」からこの「葉山館」にも受け継がれています。

特集展示の坂倉新平もその一人ですが、当館の現代美術コレクションは、アーティストやコレクターとの長年にわたるつながりから作品の収蔵に至ったものが大半を占めています。今回の展示では、その「緑」と「陽光礼讃 谷川晃一・宮迫千鶴展」、「特集展示 坂倉新平」に呼応する「光」に思いを致しながら、1960年代以降の作品を中心に構成します。



4.

青山義男、猪熊弦一郎、小川待子、川端実、木村忠太、高松次郎、田淵安一、多和圭三、松本陽子、宮脇愛子、李禹煥らの作品が自らの内に宿す光は、陰影を作り出す現実の光を超えて、人々の思考や記憶、心の中に何らかの襲をもたらし、静けさ、懐かしさ、希望、ダイナミックな力を与えてくれるはずです。

学芸員によるギャラリー・トーク

11月6日(日)、12月10日(土) 各日午後2時～2時30分
※申込不要、参加無料(ただし展覧または「陽光礼讃展」の当日観覧券が必要です)

同時開催

葉山館 「陽光礼讃 谷川晃一・宮迫千鶴展」
10月22日(土)～2017年1月15日(日)
鎌倉別館 「松本峻介 創造の原点」
10月8日(土)～12月25日(日)

主催：神奈川県立近代美術館

休館日：月曜日(ただし1月9日は開館)、12月29日(木)～2017年1月3日(火)
開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料：一般250(150)円、20歳未満と学生150(100)円、65歳以上と高校生100円
※()内は20名以上の団体料金です。
※中学生以下と障害者手帳等をお持ちの方(および介助者原則1名)は無料です。その他の割引につきましてはお問い合わせください。
※ファミリー・コミュニケーションの日：毎月第1日曜日(今回は11月6日、12月4日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は、割引料金(65歳以上の方を除く)でご観覧いただけます。
※無料開館日：11月3日(木・祝)「文化の日」は、神奈川県立近代美術館で開催中の展覧会を無料でご観覧いただけます。



1.



2.

© The MIMOCA Foundation

photo © Norihiro Ueno



3.

photo © Norihiro Ueno



5.



6.



8.

【葉山館への交通案内】
電車・バス：JR横須賀線「逗子」駅(3番のりば)、または京浜急行「新逗子」駅前(南口2番のりば)から京浜急行バス「逗11、12系統(海岸回り)」に乗りし、「三ヶ丘・神奈川県立近代美術館前」で下車(所要時間約20分)。
車：横須横須賀道路逗子ICから逗葉新道経由で7.6km、または横須賀ICから県道27号線横須賀葉山線経由で7.2km。

【葉山館駐車場(有料)のご案内】
営業時間：午前8時30分～午後6時(入庫は午後4時30分まで)
駐車料金(1時間/追加は30分毎に加算)：普通車400円、バス1,200円
・コレクション展の観覧券は、駐車料金割引の適用外です。
・レストランやショップで2,000円以上ご利用いただいた方は、1時間無料です。
・貸切バス等(定員11名以上)でご来館の場合、駐車場の事前予約および前面道路の通行許可申請が必要です。団体名、連絡先、来館日時、台数をご連絡ください。
Tel. 046-875-2800




The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama
神奈川県立近代美術館
〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色2208-1 Tel. 046-875-2800
http://www.moma.pref.kanagawa.jp
公式ツイッターアカウント @KanagawaMoMA

特集展示 坂倉新平

コレクション展2の特集展示として、坂倉新平(1934―2004)をとりあげます。
坂倉新平は岐阜県に生まれ、東京の文化学院美術科に学んだ後、1963年から1980年までフランスで制作活動を行います。1981年から亡くなるまでは、神奈川県二宮町に暮らしました。
坂倉新平と当館は、不思議な「縁」で結ばれています。美術の道を志して1951年に東京に出てきた17歳の新平は、19歳のとき、同姓の(親戚ではありませんが)建築家・坂倉準三に出会います。坂倉準三は、造形的な面だけではなく「建築家として現代美術を客観的に世界美術史の高さから見て教えて」くれたといいますが、さらに、若いうちに美しいものを見て、旅行でもなんでも思い立ったらどンドンやれと語ったそうです。この教えに従って、新平は後年数多くの旅行をするようになりました。
1951年、坂倉準三は師のル・コルビュジエに先んじて美術館建築を実現させます。それが「鎌倉近代美術館」の愛称で呼ばれた当館の鎌倉館(2016年3月閉館)です。



7.

5. 坂倉新平《赤の根源 1》 1998年
6. 坂倉新平《内なる光―リラ色(2)》 1992年
7. 坂倉新平《光を揺さぶる》 2000年
8. 坂倉新平《Viva, シャンパン! (緑)》 2003年

鎌倉館を設計・開館させたばかりの坂倉準三と、新平との出会い。それから40年後、1993年に鎌倉館で「今日の作家たちV-93 坂倉新平・舟越桂」展を開くことになるとは、当時の新平には想像もできないことだったでしょう。
今回の展示は、この二人展開催の時期から2000年代初頭の油彩を特集するものです。18年に及ぶフランス滞在と帰国後も続く幾多の旅行は、それぞれの土地の空気を満たす光を彼に残しました。各地の光を思わせる画面にはまた、見るものの心の内を満たしていくような、精神的な広さと深さを感じられます。
またこの展示では、一色海岸に面して建つ当館の建築的特徴を活かし、海を見下ろす窓のある展示室のブラインドを開けて、海辺の光とともに作品をご覧頂きます。秋から冬へと向かう葉山の光の中で、坂倉新平の作品をお楽しみください。

